

化学物質等安全データシート

【製品名】ノバテック[®]HD HB420R

改訂

2010年07月01日

1. 会社情報

会社名

日本ポリエチレン株式会社

住所 : 東京都港区芝4-14-1

担当部門 : 品質保証部

担当者 : 古橋 裕之

電話番号 : 03-6414-4460

FAX番号 : 03-6414-4449

2. 危険・有害性の要約

危険性

常温の取扱いでは特に危険性はない。

成形加工時は、高温のため分解ガスが発生する可能性もあるので、注意を要す。

粉塵は、爆発混合気を生成する可能性がある。

有害性

生理学的に不活性であり、人体への特別な毒性作用はない。

環境影響

野外に漏出した場合、鳥等の動物が飲み込み窒息する可能性があるため、廃棄や漏出には注意を要す。

GHS分類

分類基準に該当しない。

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別

単一製品

化学物質名

ポリエチレン

成分(主成分)

エチレンホモポリマー

官公署登録番号(化審法、安衛法)

エチレンホモポリマー (6)-1

CAS. No.

エチレンホモポリマー 9002-88-4

化学式

(C₂H₄)

4. 応急処置(成形加工時)

目に入った場合

大量の冷水で充分洗眼後、医師の診断を受ける。

皮膚についた場合

溶解剤が付いた場合は、素早く大量の水で冷やす。

火傷の程度により医師の診断を受ける。

吸入した場合

新鮮な空気の場所に移動し、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに吐き出させる。多量に飲み込んだ場合は、医師の診断を受ける。

5. 火災時の処置

消火方法

消火活動時は、保護具着用のこと

消火剤

水、二酸化炭素、ドライケミカル、泡消火剤

6. 漏出時の処置

人体に対する注意

こぼれたペレットは、足を滑らせ転倒させる可能性があるため、掃き集めたり、真空で吸い取り、容器に回収する。

環境に対する注意

公共用水域や野外に漏出させないこと。

7. 取扱い及び管理上の注意

取扱い上の注意

水分、湿気、強酸化剤、熱源、火源との接触は、厳禁。

保管上の注意

破袋により荷崩れを起こし、最悪の場合、人身事故を招く可能性もあるので破袋の原因になる乱暴な扱い(落下させたり、衝撃を加えたり、引きずる等)をしない。
 破袋後は転倒の危険があります。転倒しないよう、十分安全対策を施した上で実施のこと。常温室内保管。氷濡れ・湿気・異物付着。湿入・直射日光は厳禁。
 長期間の保管により破袋、荷崩れ、あるいはペレットの固着を起こす場合もあるので、過大な積み重ねや長期間の保管は避ける。
 (原則として、6ヶ月以内に使用して下さい)

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

成形加工時又は粉塵により分解ガス、蒸気、ミストが発生する可能性があるため、成形工場の換気を十分に行い、成形装置には局所排気装置を設置する。

許容濃度

日本産業衛生学会、ACGIH：設定されてない。

(但し、粉塵が発生する場合は、日本産業衛生学会の第3種粉塵に対する勧告値を基準に採用するのが望ましい。すなわち吸入性粉塵：2mg/m³、総粉塵：8mg/m³)
成形加工時は高温になるので、長袖作業衣、手袋(綿、皮革製)を着用し、火傷に注意する。高温で長時間滞留後のパージ時には、顔面保護のこと。粉塵が発生する場合は防塵マスクを着用する。

保護具

9. 物理的及び化学的性質

外観

乳白色ペレット(又は白色パウダー)

融点

125~140℃

密度

0.94~0.97(g/cm³)

溶解性

水に不溶

発火点

400℃< (推定)

10. 安定性及び反応性

安定性

常温では安定。300℃以上の高温において分解し、炭化水素及びその酸化物(アルデヒド、酸、アルコール等)を生成する。

反応性

水との反応性、自己反応性、爆発性は、なし

可燃性

あり(消防法の指定可燃物)

燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素及びその酸化物を生成する。

11. 有害性情報

発がん性

IARCの発がん性区分でグループ3
(人に対する発がん性については、分類できない)

急性毒性、慢性毒性

なし(文献による)

変異原性、生殖・発生毒性、感作性、刺激性

特に知見なし(特別な問題はないと考えている)

12. 環境影響情報

分解性、蓄積性、発毒性

特に知見なし(特別な問題はないと考えている)。

海洋生物や鳥類が摂取することを防止するため、海洋や水域での投棄、放出はしない。

13. 廃棄上の注意

「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に従って回収又は埋立を行う。
地方自治体の規制がある場合は、それに従うこと。

14. 輸送上の注意

水漏れ、異物混入及び荷崩れ防止措置を行う。

包装を傷付けたり、破損させるような乱暴な取扱いは厳禁。

15. 適用法令

消防法

指定可燃物(合成樹脂類3,000kg)

廃棄

廃棄物処理及び清掃に関する法律

PRTR法

現行(旧)PRTR法：対象外

改正PRTR法(2009年10月1日施行)：対象外

安衛法(通知対象物)

対象外

その他、使用用途による規制あり。(例)食品包装材：食品衛生法、医薬品用容器：薬事法

16. その他の情報

記載内容の問い合わせ先

購買記入の担当部門までお願いします。

化学物質等安全データシート

【製品名】ノバテックTMLD LJ605

改訂

2009年08月06日

1. 会社情報

会社名

日本ポリエチレン株式会社

住所 : 東京都港区芝4-14-1

担当部門 : 生産統括部 品質保証室

担当名 : 古橋 裕之

電話番号 : 03-6414-4460

FAX番号 : 03-6414-4449

2. 危険・有害性の要約

危険性

常温の取扱いでは特に危険性はない。

成形加工時は、高温のため分解ガスが発生する可能性もあるので、注意を要す。

粉塵は、爆発混合気を生成する可能性がある。

有害性

生理学的に不活性であり、人体への特別な毒性作用はない。

環境影響

野外に漏出した場合、鳥等の動物が飲み込み窒息する可能性があるため、廃棄や漏出には注意を要す。

GHS分類

分類基準に該当しない。

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別

単一製品

化学物質名

ポリエチレン

成分(主成分)

エチレンホモポリマー

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

エチレンホモポリマー (6)-1

CAS. No.

エチレンホモポリマー 9002-88-4

化学式

 $(C_2H_4)_n$

4. 応急処置(成形加工時)

目に入った場合

大量の冷水で充分洗眼後、医師の診断を受ける。

皮膚についた場合

溶融樹脂が付いた場合は、素早く大量の水で冷やす。

火傷の程度により医師の診断を受ける。

吸入した場合

新鮮な空気の場所に移動し、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに吐き出させる。多量に飲み込んだ場合は、医師の診断を受ける。

5. 火災時の処置

消火方法

消火活動時は、保護具着用のこと

消火剤

水、二酸化炭素、ドライケミカル、泡消火剤

6. 漏出時の処置

人体に対する注意

こぼれたペレットは、足を滑らせ転倒させる可能性があるため、掃き集めたり、真空中で吸い取り、容器に回収する。

環境に対する注意

公共用水域や野外に漏出させないこと。

7. 取扱い及び管理上の注意

取扱い上の注意

保管上の注意

水分、湿気、強酸化剤、熱源、火源との接触は、厳禁。

破袋により荷崩れを起こし、最悪の場合、人身事故を招く可能性もあるので破袋の原因になる乱暴な扱い(落下させたり、衝撃を加えたり、引きずる等)をしない。

段積みは転倒の危険があります。転倒しないよう、十分安全対策を施した上で実施のこと。常温室内保管。水濡れ・湿気・異物付着、湿入・直射日光は厳禁。

長期間の保管により破袋、荷崩れ、あるいはペレットの固着を起こす場合もあるので、過大な積み重ねや長期間の保管は避ける。

(原則として、6ヶ月以内に使用して下さい)

8. 発煙防止及び保護装置

設備対策

成形加工時又は粉塵により分解ガス、蒸気、ミストが発生する可能性があるため、成形工場の換気を十分に行い、成形装置には局所排気装置を設置する。

許容濃度

日本産業衛生学会、ACGIH：設定されてない。

保護具

（但し、粉塵が発生する場合は、日本産業衛生学会の第3種粉塵に対する勧告値を基準に採用するのが望ましい。すなわち吸入性粉塵：2mg/m³、総粉塵：8mg/m³）
成形加工時は高温になるので、長袖作業衣、手袋（綿、皮革製）を着用し、火傷に注意する。高温で長時間滞留後のパージ時には、顔面保護のこと。粉塵が発生する場合は防塵マスクを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

乳白色ペレット（又は白色パウダー）

融点

100～135℃

密度

0.91～0.94（g/cm³）

溶解度

水に不溶

発火点

400℃＜（推定）

10. 安定性及び反応性

安定性

常温では安定。300℃以上の高温において分解し、炭化水素及びその酸化物（アルデヒド、酸、アルコール等）を生成する。

反応性

水との反応性、自己反応性、爆発性は、なし

可燃性

あり（消防法の指定可燃物）

燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素及びその酸化物を生成する。

11. 有害性情報

発がん性

IARCの発がん性区分でグループ3
（人に対する発がん性については、分類できない）

急性毒性、慢性毒性

なし（文献による）

変異原性、生殖・発生毒性、感作性、刺激性

特に知見なし（特別な問題はないと考えている）

12. 環境影響情報

分解性、蓄積性、魚毒性

特に知見なし（特別な問題はないと考えている）。

海洋生物や鳥類が摂取することを防止する為、海洋や水域での投棄、放出はしない。

13. 廃棄上の注意

「廃棄物処理及び清掃に関する法律」に従って焼却又は埋立を行う。

地方自治体の規制がある場合は、それに従うこと。

14. 輸送上の注意

水濡れ、異物混入及び荷崩れ防止措置を行う。

包装を傷付けたり、破損させるような乱暴な取扱いは厳禁。

15. 適用法令

消防法

指定可燃物（合成樹脂類3、000kg）

廃棄

廃棄物処理及び清掃に関する法律

PRTR法

現行（旧）PRTR法：対象外

改正PRTR法（2009年10月1日施行）：対象外

安衛法（通知対象物）

対象外

その他、使用用途による規制あり。（例）食品包装材：食品衛生法、医薬品用容器：薬事法

16. その他の情報

記載内容の問い合わせ先 前頁記入の担当部門までお願いします。

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	ハイゼックス (ペレット)
会社名	株式会社プライムポリマー
住所	東京都港区東新橋一丁目5番2号
担当部門	品質保証室
電話番号	03-6253-4630
FAX番号	03-6253-4984
整理番号	12001

2. 組成, 成分情報

化学名又は一般名	ポリエチレン
成分	エチレン・ α -オレフィンコポリマー
含有量	99%以上
官報公示整理番号	
化審法	(6)-1 または (6)-10 または (6)-18
安衛法	(6)-1 または (6)-10 または (6)-18
CAS 番号	9002-88-4 または 9010-79-1 または 25087-34-7
危険有害成分	PRT法指定化学物質には該当しない。 労働安全衛生法の通知対象物質には該当しない。

3. 危険有害性の要約

最重要危険有害性

有害性 : 高分子量化合物で生理学的に不活性であり, 人体への特別な急性作用はない。

高温溶融樹脂から発生するガスは目, 呼吸器に刺激性がある。

環境影響 : 環境の中で長期間分解しないため, 環境汚染の原因となる。

物理的及び化学的危険性

: 火災条件下で熱分解し空気と混合して爆発性混合気を生じる恐れがある。

特定の危険有害性 : 床面に残ると滑り易い。

分類の名称 (分類基準は日本方式)

: 分類基準に該当しない。

4. 応急措置

吸入した場合 : 高温の溶融樹脂から発生するガスを多量に吸入した場合は, 空気の新鮮な場所に移る。

症状変化が現れた場合には, 直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 : 溶融物が皮膚に付着した場合は, 衣服の上から多量の水をかけて十分に冷却する。

- 皮膚に張りついたポリマーや衣服は無理に剥がさないで、直ちに医師の手当てを受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに清浄な水で洗浄する。
洗眼の際、まぶたを指で良く開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄する。
コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
異物感が目に残るようであれば、速やかに眼科医の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ 1・2 杯の水又は牛乳を飲ませて、直ちに医師の手当てを受ける。
可能であれば、指を咽喉に差し込んで吐き出させる。
被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 霧状水、粉末、二酸化炭素、泡
- 特定の消火方法 : 火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止する。
移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
周囲の設備などに散水して冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、状況に応じた保護具を必ず着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業の際は保護具を着用し、接触および粉塵の吸入を避ける。
この製品がこぼれた場所は、すべりやすいので注意する。
- 環境に対する注意事項 : 環境への影響を起こさないよう、河川などに排出しない。
- 除去方法 : 飛散したものは掃き集めて紙袋又はドラムなどに回収する。
溶解状態で漏出した時は、水等で冷却し、固化した後、回収する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

- 取り扱い
- 技術的対策 : 換気の良い場所で取り扱う。
電気機器類は防爆構造の物を用い、静電気対策を行う。
吸入、皮膚への接触を防ぎ、又、目に入らないように適切な保護具を着用する。
- 注意事項 : 取り扱う場合は、局所排気内で取り扱う。
- 安全取り扱い注意事項 : 機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。
ペレットは、床面に残ると滑りやすいので、常に清掃し取り除く。

保管

適切な保管条件 : 直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて保管する、
防湿に留意する。
屋内貯蔵を原則とする。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 取り扱い場所には、全体換気装置を設置する。
密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
取り扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備
を設ける。

管理濃度 : 未設定

許容濃度

日本産業衛生学会（2002）

: 第3種粉塵 吸入性粉塵 2 mg/m³

総粉塵 8 mg/m³

ACGIH（2002）: その他の粉塵 呼吸性粉塵 3 mg/m³

吸入性粉塵 10 mg/m³

保護具

呼吸器の保護具 : 呼吸保護具

手の保護具 : 保護手袋

目の保護具 : ゴーグル、保護面

皮膚及び身体の保護具

: 安全帽、保護服、安全靴

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態 : 固体

形状 : ペレット

色 : 白色又は乳白色

pH : 非該当

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

融点 : 125 - 135 °C（銘柄により異なる）¹⁾

引火点 : > 200 °C ¹⁾

発火点 : > 270 °C ¹⁾ (ASTM E659)

爆発特性 : 知見なし

密度（比重） : 0.94 - 0.97（銘柄により異なる）¹⁾

溶解性 : 水に不溶。 ¹⁾

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の取り扱い状態において安定。

火災条件下で熱分解し空気と混合して爆発性混合気を生じる恐れがある。

反応性 : 強酸化剤と反応する。 ²⁾

危険有害な分解生成物 : 知見なし

1 1. 有害性情報

急性毒性 : 知見なし
局所効果 : 知見なし

1 2. 環境影響情報

: 知見なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 焼却処理を行う場合、完全に分解させるために燃焼室の温度を 800℃以上に保持する。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を遵守して適正に処理する。
汚染容器・包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4. 輸送上の注意

国連分類 : 国連定義の危険物に該当しない。
輸送の特定の安全対策及び条件
: 容器の破損、漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
直射日光を避ける。
注水厳禁、高温下厳禁

1 5. 適用法令

消防法 : 第 9 条の 3 政令別表第 4 指定可燃物 (合成樹脂類)
(発泡させたもの : 20 m³, その他のもの : 3,000 kg)

※ 食品包装用途等の用途規制に関しては、別途ご相談下さい。

1 6. その他の情報

引用文献

- 1) 自社データ
- 2) 化学品安全管理データブック (化学工業日報社, 2000)

<記載内容について>

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには注意して下さい。なお、注意事項等については通常の取り扱いを対象にしたものですので、特別な取り扱いをする場合には、さらに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

本製品安全データシートを適用するグレード

1108J	3000B	5000H	3300F	6300M	5100E
1300J	5100B	5000S	3600F	6308M	5100EU
1608J	5195B	5000SF	7000F	6600M	5305E
2100J	5202B	5000SR	7700F	7500M	
2100JH	5300B	6800S	8000F	7700M	
2110JH	5301B			7800M	
2100K	5600B				
2200J	6008B				
2208J	6200BX				
2209J	6201BX				
	6203B				
	6700B				
	8200B				
	8201B				
	8208B				
	8800B				
	8800BS				